

「通年で売れるニュージーランド」 オセアニア部会、需要喚起セミナー開催

JATAアウトバウンド促進協議会（JOTC）は1月23日、東京、霞ヶ関の全日通電ケ関ビルで「JOTC（プランナーのためのセミナー）通年で売れるニュージーランド」を開催し、プランナー40人以上が参加しました。

同セミナーは、JOTCオセアニア部会が実施したもので、ニュージーランド政府観光局、サザントラベルリミテッド、G2トラベルジャパンの関係者が登壇して、ニュージーランドの魅力を紹介。自然や動物など年間を通じて企画・販売が可能な素材が豊富であることをアピールしています。

セミナーでは、グローバルなマーケット環境として2015年からの3年間で入国者数は20%以上増加と大幅な伸びを



四季を通じた魅力を紹介したニュージーランド・セミナー

示していること、世代別に見ると、若年層（25～54歳）が牽引、一方でシニア層（55～74歳）がやや減少しており復活が課題であること、訪問時期はシーズンごとの大きな差はなく、四季それぞれの魅力の発信により、日本マーケットにおいてもシヨルター時期の底上げは可能であること、特に冬は空気が澄み渡り、緑・星空がとても綺麗に見える魅力的であることが示されました。

同時に、ニュージーランドへの旅行意欲を駆り立てられる写真のトップ20に雄大な自然景観や星空、動物などが集中していることも報告され、こうした素材に加えて食やワイナリー、鉄道・フェリーなどの移動も観光を深めるツールとなることが発信されました。

また、第2のゴールデンルートに繋がる注目都市として、クライストチャーチ、ウエリントン、ダニーデンの三都市が紹介され、モデルコースも提案されました。

クライストチャーチにおけるホテル室数は2019年末までに1000室近く増加する見通しです。

ニュージーランド政府観光局では、ニュージーランドスペシャリストプログラム（NZSP）をプロンズ・シルバー・ゴールドの3カテゴリーにリニューアルしており、オンライントレーニングなどを通じて同プログラムへの参加を呼びかけています。

広島経済大学で「JATA海外教養講座」 JOTCと中四国支部が連携して実施

JATA中四国支部は1月20日、広島市中区の広島経済大学立町キャンパスで「JATA海外教養講座」を開催しました。

同講座は、1月19日から21日までの3日間にわたって広島市内で開かれた「広島空旅！2018」におけるイベントの環として実施。

広島市立大学国際学部の宇野昌樹名誉教授による「多様で豊かな地中海世界」アラブから見た地中海文化圏」、広島経済大学スポーツ経営学科の濱口博行教授による「スポーツは世界へ

のパスポート／感動と発見」、キュナードラインの児島得正ジャパンオフィス事業部長による「世界と日本の現状から見たクルーズ市場の今後」の3講座には、合わせて約160人が参加しています。

一般にはヨーロッパがイメージされがちな地中海世界にあつてアラブ人が基層文化の形成に大きな役割を果たしたことや、100カ国以上を訪問して経験したサッカーを通じた感動と発見、日本におけるクルーズの発展に必要なものは何かなど、講座の参加者らは各講師による興味深い話に熱心に耳を傾けました。

「広島空旅！」は、広島空港の利用促進と来場者の旅行機運を高めることを目指して、「広島空港からステキな旅に出かけよう！」をコンセプトに内外の観光局や観光協会、航空会社、観光施設などが一堂に会して開催される広島県で最大級の旅の情報発信イベントで、今年が7回目となります。

今回の「JATA海外教養講座」は、JATAアウトバウンド促進協議会による地方支部との連携事業として企画されました。



一般市民など約160人が集まったJATA海外教養講座